

令和8年（2026年）9月15日

～デング熱患者の発生について～

- 県内で今年初めてのデング熱（4類感染症）の患者が確認されました。全国では83件（9月6日現在）が報告されています。
- デング熱は、蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによっておこる感染症です。熱帯や亜熱帯の全域で流行しています。
- 流行地域に渡航する場合は、長袖・長ズボンの着用に留意し、虫よけ剤を使用するなど蚊に刺されないように注意しましょう。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。

＜患者の概要＞

- （１）患 者：女性（20歳代）、合志市在住
- （２）職 業：学生
- （３）症 状：発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、倦怠感等
- （４）経 過：
 - 9月1日～9月4日：旅行のためベトナムに渡航。蚊に刺される。
 - 9月 8日：発熱、頭痛、発疹、倦怠感等の症状が出現
 - 9月14日：症状が続くため、熊本市保健所管内のA医療機関を受診、同日熊本市保健所管内のB医療機関を受診後、入院。
 - 9月14日：検査の結果、デング熱陽性であることを確認。※患者は入院中だが、快方に向かっている。

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班

担当 櫻田、徳永

電話 096-333-2240（直通）（内線 33154）

（裏面あり）

<参考>

■ デング熱について

蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによっておこる急性の熱性感染症で、東南アジア、南アジア、中南米など熱帯や亜熱帯の全域で流行しています。

感染経路: ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します（蚊媒介性）。ヒト-蚊-ヒトの経路で感染が伝播し、ヒトからヒトへの感染はありません。

潜伏期: 2～14日（多くは3～7日）

症状: 突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹などの症状がみられる。通常は、1週間程度で回復するが、ごく一部の患者は重症化してショック症状や出血傾向を呈することがある。

治療: 特異的な治療法はなく、対症療法となります。

■ 感染を防ぐためには

○蚊に刺されないように心がけること。

- ・蚊の多い場所においては、長袖、長ズボンを着用し虫よけ剤を使用してください。
- ・家庭周りの小さな水たまり（植木鉢の皿、古タイヤ、竹の切り株など）をなくし、蚊の発生源を減らすようにしてください。

○休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努めること。

○国内で利用可能なワクチンはありません。

■ 県及び全国の発生状況

年	H18～H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
熊本県	16	2	3	2	0	0	0	2	1	1※ ¹
全 国	2,384	201	461	45	8	98	175	230	165	83※ ²

※1: 本日（9/15）時点

※2: 第36週（9/6）時点

【お願い】

報道機関各位におかれましては、個人情報の保護の観点から、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、各段の御配慮をお願いします。